

神岳かみぎに登りて、山部宿禰赤人の作る歌

一首 并せて短歌

三三四番

みもろの 神奈備山に 五百枝さし しじに生ひ
たる つがの木の いや継ぎ継ぎに 玉葛 絶
ゆることなく ありつつも やまず通はむ 明日
香の 古き都は 山高み 川とほしろし 春の日は
山し見がほし 秋の夜は 川しさやけし 朝雲に
鶴は乱れ 夕霧に かはづはさはく 見ることに
音のみし泣かゆ 古思へば

反歌

三三五番

明日香川 川淀去らず 立つ霧の 思ひ過ぐべき
恋にあらなくに